

平成30年度羽曳野市事務事業評価シート(平成29年度実施事業)

				コード	523-01-02		
事務事業名		収穫祭開催事業		事務の種類		自治事務（任意のもの）	
				連絡先		内線2760	
担当部署名		生活環境部 観光課		予算科目	会計	1 一般会計	
総合基本計画	施策目標		5		魅力発見賑わいと創造にあふれるまち	款	7 商工費
	施策		2		商工業・サービス業	項	1 商工費
	施策の方向		3		地域産業の活性化	目	2 商工振興費
対象（誰を・何を）		市来訪者及び駒ヶ谷地域					
目的（どうしたいか）		羽曳野市の特産品であるぶどうなどの地場産品を通じて、地域産業の振興、PR及び地域の活性化を図るとともに、駒ヶ谷地区の豊かな自然環境を多くの人に発信し交流を育む。					
手段（事業内容）		収穫祭実行委員会へ助成金の交付を行うとともに、実行委員会の事務局として、実行委員会の開催、事業実施内容の調整（軽トラ市などとの共同開催）などを行う。					

事業費

単位：千円	28年度決算	29年度決算	30年度当初予算
事業費	875	789	900
人件費	3,322	2,074	1,134
総事業費	4,197	2,863	2,034
うち市負担分	4,197	2,863	2,034

29年度決算主な内訳
【事業費】 収穫祭実行委員会補助金789千円

活動指標

指標名	地域出店者数	単位	者
指標の説明	ブース出店者のうち、駒ヶ谷地域の出店者数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	8	8	8

参考数値

成果指標

指標名	イベント参加者数	単位	人
指標の説明	地域のPRを行えた人数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	2,000	2,000	2,000

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価

☐ 拡充・重点化	☒ 現状維持	☐ 改善して継続	☐ 縮小・統合	☐ 完了	☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容					
市の特産品であるぶどうを主とした、地域の魅力を存分に楽しめるイベントを開催することにより、地域の賑わいを創出し、地域産業の振興や地域の活性化に結びつく事業を展開している。今後も引き続き、市の魅力をPRできるような事業を実施していく。					

平成30年度羽曳野市事務事業評価シート(平成29年度実施事業)

				コード	531-01-01		
事務事業名		軽トラ市開催事業		事務の種類		自治事務（任意のもの）	
				連絡先		内線2760	
担当部署名		生活環境部 観光課		予算科目	会計	1 一般会計	
総合基本計画	施策目標		5		魅力発見賑わいと創造にあふれるまち	款	7 商工費
	施策		3		観光振興・都市間交流	項	1 商工費
	施策の方向		1		地域資源の活用と観光資源の創出	目	3 観光費
対象（誰を・何を）		市民及び市外の消費者					
目的（どうしたいか）		消費者、生産者、商工業者が一体となって参画・交流を深め、地域の賑わいを図る。					
手段（事業内容）		駒ヶ谷駅西側公園を中心に、新鮮な野菜や果物、自慢の品物を軽トラックの荷台などに載せて生産者等が対面販売を行う事業を定期的に開催する。					

事業費

単位：千円	28年度決算	29年度決算	30年度当初予算
事業費	1,407	4,084	4,039
人件費	8,342	3,925	6,424
総事業費	9,749	8,009	10,463
うち市負担分	9,749	8,009	10,463

29年度決算主な内訳
【歳出】 需用費 1,331千円 委託料 2,184千円 報償費 155千円 使用料及び賃借料 369千円

活動指標

指標名	事業実施回数	単位	回
指標の説明	年間の軽トラ市イベントの開催数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	12	9	10

参考数値
事業実施回数 H28 12回 H29 9回 来場者数 H28 25,200人 H29 7,400人

成果指標

指標名	来場者数	単位	人
指標の説明	年間の軽トラ市イベントへの来場者数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	25,200	7,400	20,000

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合について検討の余地がある。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。	B
	人件費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価

☒ 拡充・重点化	☒ 現状維持	☐ 改善して継続	☐ 縮小・統合	☐ 完了	☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 市内各地において軽トラ市を開催することで、市域全体における地域特産物の消費拡大とPRに努めるとともに、地域の賑わいの創出を継続して図っていく。また、出店者が主体となる運用にむけて、出店者との意見交換や来場者の声など、情報の共有に努めていく。					

平成30年度羽曳野市事務事業評価シート(平成29年度実施事業)

				コード	531-01-02		
事務事業名		七夕祭開催事業		事務の種類		自治事務（任意のもの）	
				連絡先		内線2760	
担当部署名		生活環境部 観光課		予算科目	会計	1 一般会計	
総合基本計画	施策目標		5		魅力発見賑わいと創造にあふれるまち	款	7 商工費
	施策		3		観光振興・都市間交流	項	1 商工費
	施策の方向		1		地域資源の活用と観光資源の創出	目	3 観光費
対象（誰を・何を）		全ての羽曳野市民及び市外の消費者					
目的（どうしたいか）		竹内街道沿道の活性化や魅力向上を図る。					
手段（事業内容）		古市駅東広場周辺において、地域特産品等を販売するブースやステージイベントを実施する。					

事業費

単位：千円		28年度決算	29年度決算	30年度当初予算
事業費		350	680	860
人件費		4,282	2,074	3,023
総事業費		4,632	2,754	3,883
うち市負担分		4,632	2,754	3,883

29年度決算主な内訳	
【歳出】	
需用費	121千円
委託料	487千円
報償費	72千円

活動指標

指標名	事業実施回数	単位	回
指標の説明	事業実施回数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	1	1	1

参考数値	
事業実施回数	
H28	1回
H29	1回
来場者数	
H28	2,000人
H29	2,600人

成果指標

指標名	来場者数	単位	人
指標の説明	イベントへの来場者数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	2,000	2,600	3,000

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価

☐ 拡充・重点化	☒ 現状維持	☐ 改善して継続	☐ 縮小・統合	☐ 完了	☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容					
市域全体における地域特産物の消費拡大とPRに努めるとともに、地域の賑わいの創出を図り、竹内街道沿道の活性化や魅力向上を継続して図っていく。					

平成30年度羽曳野市事務事業評価シート(平成29年度実施事業)

				コード	531-01-04	
事務事業名		道の駅しらとりの郷・羽曳野10周年記念事業		事務の種類		自治事務（任意のもの）
				連絡先		内線2760
担当部署名		生活環境部 道の駅しらとりの郷・羽曳野		予算科目	会計	1 一般会計
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見賑わいと創造にあふれるまち		款	7 商工費
	施策	3	観光振興・都市間交流		項	1 商工費
	施策の方向	1	地域資源の活用と観光資源の創出		目	4 健康ふれあいの郷管理費
対象（誰を・何を）		全ての羽曳野市民及び市外の消費者				
目的（どうしたいか）		道の駅「しらとりの郷・羽曳野」の運営者の羽曳野市と2つの館運営者JA南大阪、商工会にて、開設10周年セミナー、イベント等を実施し、更なる発展を目指す。				
手段（事業内容）		道の駅「しらとりの郷・羽曳野」の開設10周年を迎えるにあたり様々なイベントを実施。併せて、あじさい祭りとして約2週間、夜間にあじさいのライトアップを実施する。				

事業費

単位：千円	28年度決算	29年度決算	30年度当初予算
事業費	0	1,999	0
人件費	0	4,444	0
総事業費	0	6,443	0
うち市負担分	0	6,443	0

29年度決算主な内訳
【歳出】 負担金 1,999千円

活動指標

指標名	事業実施回数	単位	回
指標の説明	事業実施回数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	0	1	0

参考数値

成果指標

指標名	来場者数	単位	人
指標の説明	イベントへの来場者数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	0	4,000	0

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	概ね妥当である。	B
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きくない。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価

☐ 拡充・重点化	☐ 現状維持	☐ 改善して継続	☐ 縮小・統合	☒ 完了	☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容					
道の駅しらとりの郷・羽曳野は平成19年6月27日に開設して10周年を迎えるにあたり、連日にぎわいをみせる当駅は、今や羽曳野市を代表するおでかけスポットとなっています。これからの当駅の発展、地場産業のPR及び地域の活性化をはかるため、羽曳野の魅力を多くの方に発信できるように記念事業を開催した。					

平成30年度羽曳野市事務事業評価シート(平成29年度実施事業)

				コード	531-02-01	
事務事業名		華やいで大阪・南河内観光キャンペーン協議会事業		事務の種類		自治事務（任意のもの）
				連絡先		内線2760
担当部署名		生活環境部 観光課		予算科目	会計	1 一般会計
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見賑わいと創造にあふれるまち		款	7 商工費
	施策	3	観光振興・都市間交流		項	1 商工費
	施策の方向	1	地域資源の活用と観光資源の創出		目	3 観光費
対象（誰を・何を）		南河内の9市町村の市民及び観光客				
目的（どうしたいか）		南河内を中心とする大阪の観光魅力のPRを行うとともに、観光客の受け入れ体制の充実と観光客の誘致を促進する。				
手段（事業内容）		南河内の9市町村、大阪府、公益財団法人大阪観光局、近畿日本鉄道株式会社、南海電気鉄道株式会社が協力して、「観光PRキャラバン（年5回）」「みなみかわち歴史ウォーク（年3回）」「HPの更新」など、観光宣伝及び観光客誘致に関する事業を順次実施する。				

事業費

単位：千円	28年度決算	29年度決算	30年度当初予算
事業費	304	300	300
人件費	4,724	3,333	2,116
総事業費	5,028	3,633	2,416
うち市負担分	5,028	3,633	2,416

29年度決算主な内訳
【歳出】 負担金 300千円

活動指標

指標名	イベント実施回数	単位	回
指標の説明	「観光PRキャラバン」及び「みなみかわち歴史ウォーク」		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	8	7	7

参考数値
事業実施回数 H28 8回 H29 7回 来場者数 H28 2,336人 H29 4,791人

成果指標

指標名	イベント参加者数	単位	人
指標の説明	イベント等への参加者数（来客）数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	2,336	4,791	5,000

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事业である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合について検討の余地がある。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価

☐ 拡充・重点化	☒ 現状維持	☐ 改善して継続	☐ 縮小・統合	☐ 完了	☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容					
「観光PRキャラバン」「みなみかわち歴史ウォーク」を通じて、大阪府内はもとより、広く関西、そして大阪にこられているアジアなどからの観光客の皆さんにも情報発信を行い、南河内の魅力を知ってもらいたい。加えて、南河内の広域観光ルートの検討やインバウンド対応など、さらに創意工夫を重ね、南河内に多くの方に足を運んでいただけるよう取り組んでいく。					

平成30年度羽曳野市事務事業評価シート(平成29年度実施事業)

				コード	532-01-01	
事務事業名		道の駅しらとりの郷・羽曳野管理事業		事務の種類		自治事務（任意のもの）
				連絡先		内線2742
担当部署名		生活環境部 道の駅しらとりの郷・羽曳野		予算科目	会計	1 一般会計
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見賑わいと創造にあふれるまち		款	7 商工費
	施策	3	観光振興・都市間交流		項	1 商工費
	施策の方向	2	観光振興を推進する仕組みづくり		目	4 健康ふれあいの郷管理費
対象（誰を・何を）		来場者				
目的（どうしたいか）		安全で快適に施設を利用できるよう維持管理。また、道の駅周辺道路の渋滞緩和につながる交通誘導対策の実施。				
手段（事業内容）		環境整備（ごみ拾い、草刈、樹木管理、交通誘導、施設修繕等）、誘導員による駐車場整備、周辺道路での警備員（ガードマン）配置				

事業費

単位：千円	28年度決算	29年度決算	30年度当初予算
事業費	18,598	17,838	39,175
人件費	18,508	20,412	16,417
総事業費	37,106	38,250	55,592
うち市負担分	23,387	24,454	39,937

29年度決算主な内訳
【事業費】
17,838千円
消耗品費、水道・下水道使用料、電気料金、除草手数料、樹木管理手数料、施設管理委託料、原材料費

【特定財源】
電柱等使用料 66千円
駐車場使用料 2,300千円
市有財産貸付収入 11,430千円

活動指標

指標名	施設面積	単位	m ²
指標の説明	管理している面積		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	41,585	41,585	41,585

成果指標

指標名	過失事故件数	単位	件
指標の説明	施設内での事故発生件数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	0	0	0

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価

☐ 拡充・重点化 ☒ 現状維持 ☐ 改善して継続 ☐ 縮小・統合 ☐ 完了 ☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 来場者が、安全で快適に過ごせるよう環境維持に努めるとともに、老朽化していく施設を補修及びリニューアルし、魅力ある「道の駅」を継続していく。

平成30年度羽曳野市事務事業評価シート(平成29年度実施事業)

				コード	532-01-02	
事務事業名		道の駅しらとりの郷・羽曳野運営事業		事務の種類		自治事務（任意のもの）
				連絡先		内線2742
担当部署名		生活環境部 道の駅しらとりの郷・羽曳野		予算科目	会計	1 一般会計
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見賑わいと創造にあふれるまち		款	7 商工費
	施策	3	観光振興・都市間交流		項	1 商工費
	施策の方向	2	観光振興を推進する仕組みづくり		目	4 健康ふれあいの郷管理費
対象（誰を・何を）		来場者				
目的（どうしたいか）		羽曳野市の魅力を感じる施設づくりを目指すとともに、快適に利用できる施設整備を進める。				
手段（事業内容）		・アジサイやサクラに特化した名所づくりを通して来場者増加を狙う ・BBQ広場運営 ・Wi-Fiの利用（BBQ広場周辺） ・電気自動車急速充電器利用対象者の拡大 ・広告事業				

事業費

単位：千円	28年度決算	29年度決算	30年度当初予算
事業費	180	449	586
人件費	2,872	2,836	2,790
総事業費	3,052	3,285	3,376
うち市負担分	365	1,937	1,548

29年度決算主な内訳
【事業費】 電気自動車急速充電器電気料金 449千円
【特定財源】 BBQ広場利用料 708千円 急速充電器利用料は30年度収入 広告設置使用料 640千円

活動指標

指標名	施設開場日	単位	日
指標の説明	年間の開場日数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	313	312	312

成果指標

指標名	来場者数	単位	人
指標の説明	BBQ広場利用者及び、各店舗のレジ通過者の合計		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	957,254	904,314	910,000

参考数値
広告設置に係る契約が、平成30年7月31日にて満了となることから29年度での使用料は、4ヶ月分。30年度において新たに契約締結の見込み。 30年度予算歳入（当初） 1,828千円

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価

☒ 拡充・重点化	☒ 現状維持	☐ 改善して継続	☐ 縮小・統合	☐ 完了	☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 羽曳野市の重要な発信基地として、機能の充実を図り、J A大阪南や羽曳野市商工会とともに連携を強化しより多くの来訪に努め、「道の駅」の魅力をPRしながら観光・産業の発展に寄与する。					

平成30年度羽曳野市事務事業評価シート(平成29年度実施事業)

				コード	532-01-03	
事務事業名		観光案内所管理事業		事務の種類		自治事務（任意のもの）
				連絡先		内線2760
担当部署名		生活環境部 観光課		予算科目	会計	1 一般会計
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見賑わいと創造にあふれるまち		款	7 商工費
	施策	3	観光振興・都市間交流		項	1 商工費
	施策の方向	2	観光振興を推進する仕組みづくり		目	3 観光費
対象（誰を・何を）		市来訪者				
目的（どうしたいか）		羽曳野市に観光目的などで訪れる方に対して、各種情報を提供することにより市のさまざまな魅力をPRし、周遊ルート案内などを行う。				
手段（事業内容）		羽曳野市の公共交通機関の玄関口である近鉄南大阪線古市駅の東広場に、平成24年6月観光案内所を開設。観光に関する各種パンフレットの配布や多言語対応のデジタルサイネージなどにより、市の観光施設や特産品などの情報提供を行う。				

事業費

単位：千円	28年度決算	29年度決算	30年度当初予算
事業費	3,895	3,800	3,804
人件費	2,971	1,555	605
総事業費	6,866	5,355	4,409
うち市負担分	6,866	5,355	4,409

29年度決算主な内訳
【事業費】 観光案内所管理運営委託料3,697千円、電話料103千円

活動指標

指標名	開所日数	単位	日
指標の説明	1年間に観光案内所を開所した日数（休所日：毎週木曜日及び12月29日～1月3日）		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	308	307	307

参考数値

成果指標

指標名	来所者数	単位	人
指標の説明	1年間に観光案内所を来所した人数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	5,208	3,575	5,000

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価

☒ 拡充・重点化	☐ 現状維持	☐ 改善して継続	☐ 縮小・統合	☐ 完了	☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容					
平成29年4月に竹内街道が日本遺産となり、同年7月には百舌鳥・古市古墳群が世界遺産の国内推薦を受け、今後羽曳野市への来訪者が増加することが見込まれる。観光の発信拠点として、羽曳野市を訪れた人が市の魅力を感じ、また来たい、人に紹介したいと思われるような情報を提供できるよう、増加する外国人来訪者への対応なども含め、機能を強化していく必要があると思われる。					

平成30年度羽曳野市事務事業評価シート(平成29年度実施事業)

				コード	532-01-04		
事務事業名		観光無線LAN構築事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
				連絡先		内線2760	
担当部署名		生活環境部 観光課		予算科目	会計	1 一般会計	
総合基本計画	施策目標		5		魅力発見賑わいと創造にあふれるまち	款	7 商工費
	施策		3		観光振興・都市間交流	項	1 商工費
	施策の方向		2		観光振興を推進する仕組みづくり	目	3 観光費
対象(誰を・何を)		市来訪者					
目的(どうしたいか)		羽曳野市を訪れた方が、市の観光情報を入手するとともに、市の情報をSNSなどを利用して発信し市の魅力を上げてもらうことにより、いろいろな角度から市の魅力をPRできるようにする。					
手段(事業内容)		駒ヶ谷駅西側公園及び道の駅しらとりの郷・羽曳野において、Osaka Free Wi-Fiの整備を行った。また、古市駅前東広場の観光案内所及び、道の駅の一部で使用していたWi-Fi器機の変更整備を行なった。					

事業費

単位：千円	28年度決算	29年度決算	30年度当初予算
事業費	1,977	3,568	0
人件費	738	370	0
総事業費	2,715	3,938	0
うち市負担分	2,715	1,562	0

29年度決算主な内訳
【事業費】 道の駅：2,030千円 駒西公園：1,454千円 観光案内所(既存器変更分)：84千円 【特定財源】 OsakaFreeWi-Fi設置促進事業補助金 道の駅：1,352千円 駒西公園：968千円 観光案内所(既存器変更分)：56千円

活動指標

指標名	Wi-Fi設置場所数	単位	箇所
指標の説明	Wi-Fiを設置している市内公共観光拠点施設数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	2	3	3

参考数値
成果指標29年度実績は、4-8月実績500件。以降は不明のため、平均100件/月×12ヶ月で算出。 成果指標30年度目標は、4月実績2650件×12ヶ月で算出。

成果指標

指標名	接続数	単位	回
指標の説明	1年間に上記Wi-Fiに接続された端末数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	-	1,200	31,800

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価

☒ 拡充・重点化	☐ 現状維持	☐ 改善して継続	☐ 縮小・統合	☒ 完了	☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 観光課における観光拠点施設(観光案内所・道の駅・駒ヶ谷西側公園)については、29年度をもって設置完了となる。今後においては、魅力ある施設づくりを推進し、利用者の増加に努める。					

平成30年度羽曳野市事務事業評価シート(平成29年度実施事業)

				コード	532-01-05		
事務事業名		観光農園等管理事業		事務の種類		自治事務（任意のもの）	
				連絡先		内線2742	
担当部署名		生活環境部 観光課		予算科目	会計	1 一般会計	
総合基本計画	施策目標		5		魅力発見賑わいと創造にあふれるまち	款	7 商工費
	施策		3		観光振興・都市間交流	項	1 商工費
	施策の方向		2		観光振興を推進する仕組みづくり	目	3 観光費
対象（誰を・何を）		市民					
目的（どうしたいか）		羽曳野市において栽培可能と思われる果樹を植え付け、産業振興に寄与する種類や品種を選定し、観光資源の発掘や地域の活性化等につながる事業を展開する。					
手段（事業内容）		かんきつ類、モモ、ナシ、カキなど多種異品種を栽培管理。樹木の成長に伴い収穫できた果実について、29年度は市立の保育園児に温州みかんの収穫体験を実施。					

事業費

単位：千円	28年度決算	29年度決算	30年度当初予算
事業費	13,191	12,803	13,409
人件費	2,953	1,333	1,512
総事業費	16,144	14,136	14,921
うち市負担分	16,144	14,136	14,921

29年度決算主な内訳
【事業費】 果樹栽培指導料 240千円 消耗品費 95千円 管理運営業務委託費 12,123千円 原材料 171千円 【特定財源】

活動指標

指標名	栽培本数	単位	本
指標の説明	果樹栽培規模		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	175	175	175

成果指標

指標名	事業推進率	単位	%
指標の説明	栽培果樹の生育見込み達成度		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	100	100	100

参考数値
栽培果樹内訳 ミカン類 (109) クリ (3) モモ (7) イチジク (6) スモモ (3) ビワ (2) ナシ (28) ザクロ (2) カキ (4) サクランボ (11)

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	B
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	概ね妥当であるが見直しの余地がある。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きくない。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合について検討の余地がある。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価

☒ 拡充・重点化	☒ 現状維持	☐ 改善して継続	☐ 縮小・統合	☐ 完了	☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 果樹は順調に生育してる。今後、観光資源としての活用が期待されるとともに、駒ヶ谷駅西側公園や育苗施設と合わせて施設運営にかかる企画や立案が必要。					

平成30年度羽曳野市事務事業評価シート(平成29年度実施事業)

				コード	532-01-06		
事務事業名		育苗施設管理事業		事務の種類		自治事務（任意のもの）	
				連絡先		内線2742	
担当部署名		生活環境部 観光課		予算科目	会計	1 一般会計	
総合基本計画	施策目標		5		魅力発見賑わいと創造にあふれるまち	款	7 商工費
	施策		3		観光振興・都市間交流	項	1 商工費
	施策の方向		2		観光振興を推進する仕組みづくり	目	3 観光費
対象（誰を・何を）		市民					
目的（どうしたいか）		事業着手されていない公共用地の活用推進事業において、暫定的にビニールハウスを設置し花苗等の栽培を行ない緑化推進を図る。また、駒ヶ谷駅西側公園や観光農園と合わせて一体的な観光振興にかかる施設として活用する。					
手段（事業内容）		公共施設で植付ける花苗やイベントで配布する苗および、駒ヶ谷駅西側公園等を修景する花苗の生産・育成					

事業費

単位：千円	28年度決算	29年度決算	30年度当初予算
事業費	1,186	776	2,256
人件費	1,181	963	1,134
総事業費	2,367	1,739	3,390
うち市負担分	2,367	1,739	3,390

29年度決算主な内訳
【事業費】 花卉栽培指導料 200千円 消耗品費 83千円 原材料費 389千円
【特定財源】

活動指標

指標名	配布実施回数	単位	回
指標の説明	公共施設やイベントで配布した回数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	5	4	4

成果指標

指標名	生産量	単位	ポット
指標の説明	花苗等の栽培ポット数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	21,000	22,900	22,900

参考数値
配布実績・・・公共施設(2回) イベント配布(グリーンフェスタ、収穫祭の計2回) 生産実績・・・ハーブ(2400)マリーゴールド(10000)ホオズキ(200)パンジー(9000)バ イアップ ルミント(200)チドリソウ(200)帝王貝細工(100)カーネーション(800)

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	B
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	概ね妥当であるが見直しの余地がある。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きくない。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献度が低い。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価

☒ 拡充・重点化	☒ 現状維持	☐ 改善して継続	☐ 縮小・統合	☐ 完了	☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 駒ヶ谷駅西側公園や観光農園と一体的に整備された育苗施設において、公共施設へ提供する花苗や、イベント等にて配布する苗木を生産することにより、環境美化に努めるとともに、観光促進施設としての活用を検討する。					

平成30年度羽曳野市事務事業評価シート(平成29年度実施事業)

				コード	532-01-07	
事務事業名		駒ヶ谷駅西側公園管理事業		事務の種類		自治事務（任意のもの）
				連絡先		内線2742
担当部署名		生活環境部 観光課		予算科目	会計	1 一般会計
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見賑わいと創造にあふれるまち		款	8 土木費
	施策	3	観光振興・都市間交流		項	4 都市計画費
	施策の方向	2	観光振興を推進する仕組みづくり		目	3 公園費
対象（誰を・何を）		来園者				
目的（どうしたいか）		駒ヶ谷地区の活性化に寄与する拠点としての施設・機能の充実とともに、地域情報の発信基地としての役割構築および、地域のにぎわいを創出する公園づくりを目指す。				
手段（事業内容）		子ども遊具(つぶたん遊具等)やシェルター(日除け)、ベンチ等の公園施設および駐車場の維持管理。定期的な軽トラ市や収穫祭、はびきのの夕べなどイベント会場として活用。				

事業費

単位：千円	28年度決算	29年度決算	30年度当初予算
事業費	3,511	2,206	3,305
人件費	591	592	378
総事業費	4,102	2,798	3,683
うち市負担分	4,102	1,899	2,828

29年度決算主な内訳
【事業費】 管理費 2,206千円
【特定財源】 駐車場使用料 899千円

活動指標

指標名	開園日	単位	日
指標の説明	利用者が利用できる日数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	365	365	365

成果指標

指標名	事業進捗率	単位	%
指標の説明	適切な管理運営達成度		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	100	100	100

参考数値
29年度駐車場利用台数 無料台数 1885台 有料台数 3637台 合計 5522台 30年度予算歳入（当初） 855千円

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	B
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	概ね妥当であるが見直しの余地がある。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価

☒ 拡充・重点化	☒ 現状維持	☐ 改善して継続	☐ 縮小・統合	☐ 完了	☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 イベントのできる公園としてにぎわいと安らぎのある快適な公園を目指し、観光振興の一助となる公園づくりに努める。また、隣接する観光農園や大阪府石川河川公園との連携による駒ヶ谷駅西側公園の新たな活用方法を検討する。					

平成30年度羽曳野市事務事業評価シート(平成29年度実施事業)

				コード	532-01-08	
事務事業名		道の駅しらとりの郷・羽曳野大型遊具更新事業		事務の種類		自治事務（任意のもの）
				連絡先		内線2742
担当部署名		生活環境部 道の駅しらとりの郷・羽曳野		予算科目	会計	1 一般会計
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見賑わいと創造にあふれるまち		款	7 商工費
	施策	3	観光振興・都市間交流		項	1 商工費
	施策の方向	2	観光振興を推進する仕組みづくり		目	4 健康ふれあいの郷管理費
対象（誰を・何を）		来場者（幼児～小学生）				
目的（どうしたいか）		道の駅オープン以来使用した木製遊具が、腐朽により安全に使用することができなくなったため、30年度において遊具をリニューアルし、ＢＢＱ広場や芝生広場などと併せて家族交流および地域活動の場として活発に利用され、賑わいのあるふれあいの場を提供する。				
手段（事業内容）		安全で安心して遊ぶことができる複合遊具を整備し、幅広い年齢層の子どもたちが利用できる空間を創出する。				

事業費

単位：千円	28年度決算	29年度決算	30年度当初予算
事業費	0	3,725	22,600
人件費	0	370	378
総事業費	0	4,095	22,978
うち市負担分	0	4,095	12,978

29年度決算主な内訳
【事業費】 遊具設計業務費 1,826千円 遊具撤去工事費 1,899千円
【特定財源】

活動指標

指標名	開場日	単位	日
指標の説明	ちびっ子広場を利用できる日数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	365	365	365

成果指標

指標名	事業進捗率	単位	%
指標の説明	遊具更新に向けた各年度の達成度		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	—	100	100

参考数値
遊具整備工事費 22,600千円 コミュニティ助成事業助成金 10,000千円

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価

☐ 拡充・重点化 ☐ 現状維持 ☒ 改善して継続 ☐ 縮小・統合 ☐ 完了 ☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 安全に利用できるように新しく遊具を整備することで、多くの子どもたちが来場し、家族交流および地域活動の場として活発に利用され、他の施設と併せて賑わいのある共生の場を提供し発展することが期待できる。

平成30年度羽曳野市事務事業評価シート(平成29年度実施事業)

				コード	532-02-01		
事務事業名		観光協会運営事業		事務の種類		自治事務（任意のもの）	
				連絡先		内線2760	
担当部署名		生活環境部 観光課		予算科目	会計	1 一般会計	
総合基本計画	施策目標		5		魅力発見賑わいと創造にあふれるまち	款	7 商工費
	施策		3		観光振興・都市間交流	項	1 商工費
	施策の方向		2		観光振興を推進する仕組みづくり	目	3 観光費
対象（誰を・何を）		全ての羽曳野市民及び観光客					
目的（どうしたいか）		羽曳野市の観光事業の振興をはかると共に羽曳野市の地域経済の振興及び文化の発展に寄与する。					
手段（事業内容）		観光協会ホームページの運用農特産物及び友好都市特産物販売・振興事業はびきの「軽トラ市」事業への参加					

事業費

単位：千円	28年度決算	29年度決算	30年度当初予算
事業費	0	0	0
人件費	9,375	12,423	6,846
総事業費	9,375	12,423	6,846
うち市負担分	9,375	12,423	6,846

29年度決算主な内訳

活動指標

指標名	ホームページアクセス数	単位	件
指標の説明	観光協会ホームページの運用		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	68,225	65,586	70,000

参考数値
ホームページアクセス数 H28 68,225件 H29 65,586件 会員数 H28 112 H29 108

成果指標

指標名	会員数	単位	人
指標の説明	観光協会登録会員数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	112	108	120

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	概ね妥当である。	B
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	概ね妥当であるが見直しの余地がある。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合について検討の余地がある。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	B
	人件費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価

☐ 拡充・重点化	☒ 現状維持	☐ 改善して継続	☐ 縮小・統合	☐ 完了	☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 地域特産物や地域文化を活用し、わが町「羽曳野市」の魅力を多くの方に発信し、市民の方には本市の良いところを再確認・再発見していただけるよう、また、市外の方には「訪れたくなる」「また来たくなる」羽曳野市となるよう、行政及び各種団体と共にPR活動など連携を行って、必要となる事業に取り組んでいく。					

平成30年度羽曳野市事務事業評価シート(平成29年度実施事業)

				コード	532-02-02		
事務事業名		ガーデン倶楽部運営事業		事務の種類		自治事務（任意のもの）	
				連絡先		内線2742	
担当部署名		生活環境部 観光課		予算科目	会計	1 一般会計	
総合基本計画	施策目標		5		魅力発見賑わいと創造にあふれるまち	款	7 商工費
	施策		3		観光振興・都市間交流	項	1 商工費
	施策の方向		2		観光振興を推進する仕組みづくり	目	3 観光費
対象（誰を・何を）		市民					
目的（どうしたいか）		駒ヶ谷駅西側公園及び関連施設が、地域のふれあい交流拠点として、より魅力を持ち地域の親しまれる空間となるよう、住民ボランティアにより植物の育成、管理や環境美化に取り組み、住民の観光意識を高めるとともに人的交流を推進する。					
手段（事業内容）		公募により参加者を募り、有償にて活動。駒ヶ谷駅西側公園・観光農園・育苗施設・駒ヶ谷駅駐車場・古市花ふれあい交流広場及び道の駅しらとりの郷羽曳野において、播種作業（種まき）や育成、花壇植付け、除草及び灌水作業等の景観づくりを行う。					

事業費

単位：千円	28年度決算	29年度決算	30年度当初予算
事業費	838	611	833
人件費	812	963	1,134
総事業費	1,650	1,574	1,967
うち市負担分	1,650	1,574	1,967

29年度決算主な内訳
【事業費】 行政協力者謝礼 501千円 消耗品費 49千円 原材料費 61千円
【特定財源】

活動指標

指標名	会員数	単位	人
指標の説明	ガーデン倶楽部に関心を持って応募した市民		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	60	69	71

成果指標

指標名	活動日数	単位	日／人
指標の説明	実施できた日数および平均参加人数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	19日／30人	14日／35人	21日／40

参考数値
成果指標30年度目標は、年間活動予定日／1～4回実施した参加状況より算出。

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	概ね妥当である。	B
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	概ね妥当であるが見直しの余地がある。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価

☒ 拡充・重点化	☐ 現状維持	☒ 改善して継続	☐ 縮小・統合	☐ 完了	☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 園芸作業に慣れている会員が多く当事業への関心も高い。活動日を増やすことにより管理費の削減につながるが、現在有償ボランティアとして参加してもらっているため、予算額により活動日数が決まる(制限される)。会員間では無償にて活動日を増やしてほしいとの声もある。また、無償にすることにより、支出を抑制できるだけでなく事務の軽減につながる。					

平成30年度羽曳野市事務事業評価シート(平成29年度実施事業)

				コード	532-02-03		
事務事業名		観光ボランティアガイド育成事業		事務の種類		自治事務（任意のもの）	
				連絡先		内線2760	
担当部署名		生活環境部 観光課		予算科目	会計	1 一般会計	
総合基本計画	施策目標		5		魅力発見賑わいと創造にあふれるまち	款	7 商工費
	施策		3		観光振興・都市間交流	項	1 商工費
	施策の方向		2		観光振興を推進する仕組みづくり	目	3 観光費
対象（誰を・何を）		市民等（市外居住者を含む）					
目的（どうしたいか）		羽曳野市の歴史と文化に関心を持ち、観光客などへの観光ガイドを主とするボランティア活動への意欲を有し、観光ボランティアガイド活動に積極的に参加する市民等（市外居住者を含む）の養成をする。					
手段（事業内容）		ガイドになるための座学や現地学習の体験を通して、羽曳野市の歴史や文化に理解と愛着を深めてもらい、羽曳野市の魅力をたくさんの方に伝えていただく。（ガイド養成講座等の開催）					

事業費

単位：千円	28年度決算	29年度決算	30年度当初予算
事業費	0	0	500
人件費	960	444	378
総事業費	960	444	878
うち市負担分	960	444	878

29年度決算主な内訳

活動指標

指標名	養成講座等	単位	回
指標の説明	養成講座等実施回数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	0	0	3

参考数値

成果指標

指標名	観光ボランティアガイド養成人数	単位	人
指標の説明	観光ボランティアガイド登録人数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	0	0	10

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献度が低い。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価

☒ 拡充・重点化	☐ 現状維持	☐ 改善して継続	☐ 縮小・統合	☐ 完了	☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容					
観光ボランティアガイド活動が地域の活性化や交流に果たす役割の重要性はますます高まってきており、また世界文化遺産登録に向けた取り組みの中で、訪れて来られる方に本市の魅力をより知っていただくために、観光ボランティアガイドスタッフの養成が必要になってくる。市の魅力の発信に関わってもらえる観光ボランティアの掘り起こし、ガイドを養成するための基礎データの収集と組織づくりに取り組んでいく。					

平成30年度羽曳野市事務事業評価シート(平成29年度実施事業)

				コード	542-02-01		
事務事業名		マスコットキャラクター活用事業		事務の種類		自治事務（任意のもの）	
				連絡先		内線2760	
担当部署名		生活環境部 観光課		予算科目	会計	1 一般会計	
総合基本計画	施策目標		5		魅力発見賑わいと創造にあふれるまち	款	7 商工費
	施策		4		シティプロモーション	項	1 商工費
	施策の方向		2		まちの魅力の戦略的・効果的な発信	目	3 観光費
対象（誰を・何を）		市民等					
目的（どうしたいか）		地域の特産品、観光地、イベントなどをPRする目的で、活発に活動を行い、地元愛を持って元気や笑顔溢れる地元活性化を達成する。					
手段（事業内容）		市主催のイベントや地域の催しなどへの参加、啓発ポスター等での画像使用など、地域のPR・活性化に貢献する。					

事業費

単位：千円	28年度決算	29年度決算	30年度当初予算
事業費	126	76	134
人件費	369	1,777	831
総事業費	495	1,853	965
うち市負担分	495	1,853	965

29年度決算主な内訳
【歳出】 役務費 76千円

活動指標

指標名	イベント等参加	単位	回
指標の説明	イベント等出演回数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	26	39	50

参考数値

成果指標

指標名	P R 効果	単位	回
指標の説明	P R できた回数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	26	39	50

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価

☐ 拡充・重点化	☒ 現状維持	☐ 改善して継続	☐ 縮小・統合	☐ 完了	☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容					
羽曳野市の名所・特産品のPRをしているキャラクターである「つぶたん」は、近年の活躍により、地域に一体感が生まれ、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層に受け入れられるようになっている。					

平成30年度羽曳野市事務事業評価シート(平成29年度実施事業)

					コード	542-03-03	
事務事業名		ふるさと納税事業			事務の種類		自治事務（任意のもの）
					連絡先		内線2731
担当部署名		生活環境部 観光課			予算科目	会計	1 一般会計
総合基本計画	施策目標		5	魅力発見賑わいと創造にあふれるまち		款	2 総務費
	施策		4	シティプロモーション		項	1 総務管理費
	施策の方向		2	まちの魅力の戦略的・効果的な発信		目	5 企画費
対象（誰を・何を）		「羽曳野市を応援したい」 など、市に関心のある方					
目的（どうしたいか）		羽曳野市に関心のある方からの寄附に対し、市の特産品を謝礼品として送付することにより、市のPR及び地域の活性化・市内事業者の活性化を図る。また、寄附金の活用により市施策の充実を図る。					
手段（事業内容）		ふるさと納税に精通した事業者に業務委託することにより、寄附金の受領や地元事業者との調整・謝礼品の発送などの一連の作業をスムーズに行う。また、市のホームページやふるさと納税専用サイトの活用などにより、ふるさと納税に関する情報を定期的に発信・提供する。					

事業費

単位：千円	28年度決算	29年度決算	30年度当初予算
事業費	3,014	6,558	10,616
人件費	4,798	3,333	2,645
総事業費	7,812	9,891	13,261
うち市負担分	7,812	9,891	13,261

29年度決算主な内訳
【事業費】 ふるさと納税返礼品代887,688円、クレジットカード決済等手数料119,189円、ふるさと納税業務委託料5,500,364円、サービス利用料50,220円

活動指標

指標名	情報発信数	単位	回
指標の説明	1年間にふるさと納税に関する情報を紙・電子媒体などで発信した回数		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	5	11	20

参考数値
ふるさと納税に関する情報誌2回掲載（無料）、ふるさとチョイス自治体からの最新情報6回更新（年8回まで更新可能）、羽曳野市facebookに3回謝礼品紹介記事投稿。

成果指標

指標名	寄附額	単位	千円
指標の説明	1年間にふるさと納税として寄附された金額		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	7,101	15,067	22,000

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価

☒ 拡充・重点化	☒ 現状維持	☐ 改善して継続	☐ 縮小・統合	☐ 完了	☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容					
ふるさと納税謝礼品制度の導入により、他市在住者の羽曳野市への関心度合いや、市の魅力をどのようにPRすることが必要であるかを実感しつつある。現在、ふるさと納税制度が、他市在住者が羽曳野市を知る効果的なひとつのきっかけとなっているとも考えられるため、ふるさと納税制度を通じて、市のPRを他の事業にも活用できるように進めていくことが大事であると思われる。					